

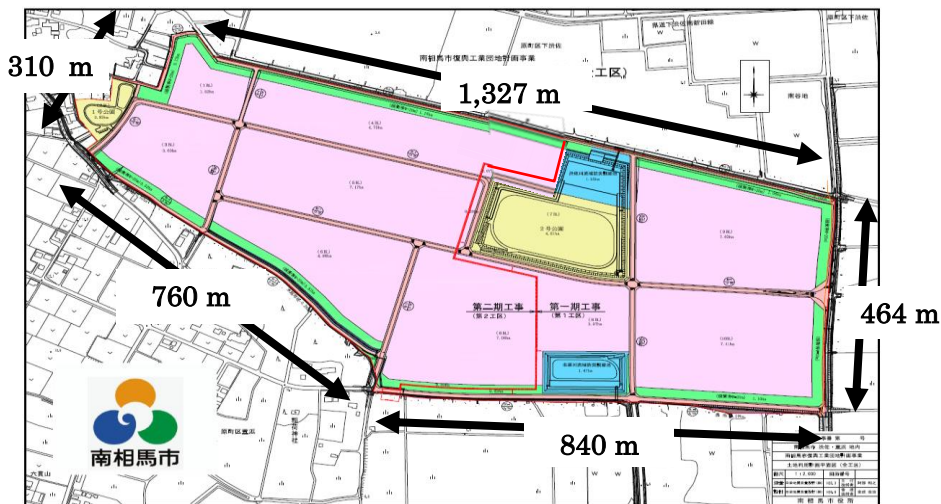
復興工業団地へのロボットテストフィールド誘致について

商工労政課

平成28年4月20日、福島県は、国と県が共同で進めている福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想のうち、ロボット産業の拠点施設である「ロボットテストフィールド」と「国際産学官共同利用施設」を南相馬市原町区上渋佐・下渋佐・萱浜地内の復興工業団地に設置することを決定しました。

ロボットテストフィールド等は、陸・海・空のロボットの国内開発拠点であり、平成28年度内の着工を目指し、平成29年度までの2年間で、国が補助金約135億円を投じ、福島県が整備を進めるものです。

1 復興工業団地の概要



- 住所：南相馬市原町区上渋佐・下渋佐・萱浜地内
- 面積：総面積 70.7ha（第1期工事33.1ha、第2期工事37.6ha）
- 整備状況：第1期工事（第1工区）：平成28年度竣工予定

2 復興工業団地を南相馬市が候補地として提案した理由

本市としては、ロボットテストフィールドは、ロボットの国内開発拠点になり得るものと認識し、ロボットテストフィールドの構想が示された当初からこれまでの間、国及び福島県に対し、積極的な誘致活動を展開してきました。

施設の必要面積が約50haと示され、本市としては必要面積をほぼ充足できる復興工業団地がロボットテストフィールドの適地であると判断し、福島県に対し候補地として提案したところ※1、これまでの取組みが実を結び、この度、「ロボットテストフィールド」及び「国際産学官共同利用施設」の誘致に成功したものであります。

※1 南相馬市その他、浪江町、川内村、楡葉町そして広野町が福島県に対し候補地を提案。

3 「ロボットテストフィールド」と「国際産学官共同利用施設」の概要

ロボット産業は、今後の成長が期待されている新産業分野です。

国及び福島県は、ロボットテストフィールド等を活用したロボット産業の発展を期待しています※2。

ロボットテストフィールドでは、今後、災害対応、インフラ点検、物流等で活躍が期待できる無人航空機や災害対応ロボット等を中心に実際に飛行試験等を行うとともに、ロボットの性能が評価できるような設備の整備が検討されています。

また、国際産学官共同利用施設では、製品の改良を行うために必要な設備（各種試験装置・加工機等）が整備され、地元企業の技術支援を行うほか、セミナーや研修をはじめとした人材育成の機能を整備することが検討されています（共同利用施設は、ロボットテストフィールド内に整備予定です。）。

今後、福島県は、整備に向けた設計を進め、平成28年度内の着工を目標としています。

※2 国の研究会の報告書「ロボットテストフィールド・国際産学官共同利用施設（ロボット）活用検討委員会 中間整理 平成28年3月」によると、例えば、ドローン等の無人航空機を活用したサービス及び機体販売の国内の市場規模は、30億円（平成27年）から1,000億円（平成42年）に成長すると推計されています。

4 ロボットテストフィールドを整備することによって

福島県は、「イノベーション・コースト構想」の推進により、ロボットテストフィールドや檜葉町に整備されているモックアップ施設等を中心として、福島県浜通り地域にロボット産業を集積させ、ロボット産業を福島県の主要産業に成長させていく方針です。

ロボットテストフィールド等が立地するメリットを最大限に活用し、本市としては、ロボット関連企業の誘致について、国、県と連携し、積極的に取り組む考えであります。

また、来訪者が増えることによる効果を地元経済へ波及させることも重要であり、商店等と連携して魅力あるまちづくりに努め、さらなる交流拡大や人材の確保に結びつける考えであります。

ロボットテストフィールド、国際産官学共同利用施設のイメージ

国際産学官共同利用施設（ロボット）

研究開発 → 試作 → 基礎性能試験評価 → 製品改良

共同利用施設のイメージ



共同利用施設イメージ図

【研究棟A棟】 1階:加工試験場。
2階:研究室配置。
【研究棟B棟】 ロボット標準試験場 (屋内飛行体試験場)
【研修棟】 研修室・宿泊施設等

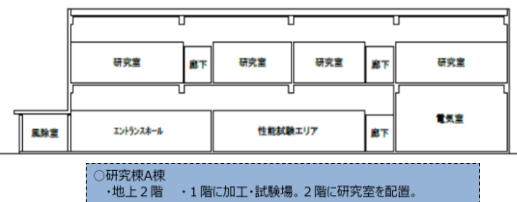


旋盤 フライス盤

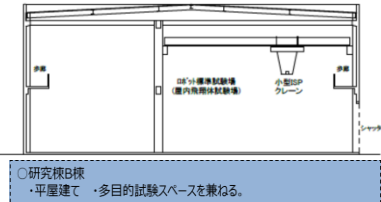
レーザー加工装置 レーザー焼結金属3Dプリンタ



ロボット標準試験設備



○研究棟A棟
・地上2階
・1階に加工・試験場。2階に研究室を配置。



○研究棟B棟
・平屋建て
・多目的試験スペースを兼ねる。

国内外の研究者、技術者、企業等の英知を結集するため、
共同で研究を行い、イノベーションを創出する環境を整備。

ロボットテストフィールド

実証試験 実地訓練 → 応用性能試験評価 → 認証



例：無人航空機



例：陸上ロボット



例：水上/水中ロボット

イメージ図



福島県の重点産業であるロボット分野の地元
中小企業や県外先進企業による産業集積を構築し、被災地の自立と地方創生のモデルを形成
するため、テストフィールドを整備。

製品化
生産開始